人文社會科學論叢 2007年 15號 pp. 211~230

韓日文化接変に關る考察
한일문화접변에 관한 고찰
- 東萊溫泉觀光を中心に -
- 동래온천관광을 중심으로 -

金楨夏*・遠藤麻衣**
김정하・엔도마이

A study on the cultural mixture between Korea and Japan

Kim, Jung-Ha・Endo, Mai

국문요약

이 글은 소위 '글로발시대'에 적합한 문화교류의 예를 한.일 간의 근대기 접촉과정에서 찾아보려는 시도이다.

하지만 국제적 교류는 때로 타인, 특히 제국주의자들의 침투로 인해 자신의 삶을 남의 기준에 맞추어 동질화시키는 불행한 결과를 낳기도 한다. 그것은 근대기의 식민지 지배나 통치가 흔히 그러했던 것처럼 대상의 타자화(他者化) 내지 일방적인 통제로 인해 발생하는 문제들이다. 그래서 문화교류 역시 근대기에 식민 지배나 통치를 경험한 나라 사이에서 이루어진 경우 그 시의성이나 적절성에도 불구하고 제국주의적 식민성의 개입되기 일쑤다.

하지만 소위 '탈근대'를 운위하는 오늘날에는 근대기의 체험을 반추하여 국경과 민족을 초월한 문화교류의 가능성을 찾는 일이 더욱 중요하다. 만약 문화교류 당사자 간에 서로가 전승해온 유사한 문화전통을 근대기에 되살려 접변(接変)과 습합(習合)을 이루어낸 예가 있다면 그것을 강제적 문화전파라 매도하기는 어렵다. 더구나 근대화된 문화를 전달받던 객체가 능동적이고 적극적인 주체가 되어 이를 수용하는 경우라면 더욱 진지한 고찰이 필요할 것이다.

* 韓国海洋大学校 東アジア学科 教授
** 韓国海洋大学校 大学院 東アジア学科

여기서는 그에 해당하는 예를 동래온천장에서 근대기에 형성된 목욕 및 관광 문화에서 찾아보고자 한다. 역사를 거슬러 올라가보면 온천은 우리나라의 왕이나 양반들이 즐겨 찾던 휴양지였으며, '화산대국(火山大国)' 일본에도 예로부터 서민들도 즐겨온 훌륭한 온천지가 많았다. 이미 『삼국유사』에 그 언급이 보이는 동래온천은 우리나라 왕이나 양반 뿐 아니라 대마도주를 비롯해 부산을 찾아온 일본인들이 출입을 소망하던 장소였다.

근대기에 이곳을 개발한 일제는 '전차종점'과 '내탕' 등 교통편과 숙박시설, 오락시설을 갖추어 "조선제일의 파라다이스"라 불릴 정도의 근대휴양지를 만들어 놓는다. 차차 시간이 지나가면서 한국인들도 그 시설을 이용해 온천욕과 관광을 즐기고 스포츠나 미디어 등 근대문물에 접할 뿐 아니라 여관경영에까지 참여하게 된다. 나아가 동래온천장은 부산을 비롯한 전국에 온천장과 유사한 목욕 및 관광 문화를 확산시켜 대중목욕문화를 정착시키기에 이른다.

그럼에도 이제까지의 동래온천장에 관한 논의는 대체로 이를 일제의 전유물로 전락한 사실을 비판하는 식이었다. 하지만 동래온천은 우리의 유서깊은 휴양지였고, 다만 왕이나 양반들만이 즐기던 전통적 온천문화와 일반인의 거리가 멀었을 뿐이다. 그 문화가 대중화된 계기가 근대기 일제에 의한 온천장 개발과 정비로부터 비롯되었던 것이다. 물론 한반도 진출과 더불어 동래온천장을 개발한 일제의 목적이 식민통치에 대한 선전이나 군인들을 요양지 마련에 있었음도 분명하다. 그러나 차차 온천문화에 익숙해진 한국인 대중들이 온천욕과 관광에서 나아가 경영에까지 참여하면서 근대문화의 주체적 수용과 향유를 이루어내고 있다. 그 과정에서 조선총독부로부터 온정굴착권을 확보하려는 동래주민들의 격렬한 운동이 있었음을 놓칠 수 없다.

그러므로 한국인들이 근대기에 동래온천장에서 경험한 온천 및 관광 문화의 경험은 국경을 넘어선 문화교류이자, 귀족문화를 대중문화로 바꾸어 놓은 일상문화의 근대화과정이었다. 그로부터 한국인들도 근대인으로서 누릴 수 있는 여가문화를 발견하면서 근대사회의 임노동의 객체만이 아니라 관광을 즐기는 주체가 되었다. 그러한 동래 온천장은 해방 후로도 오랫동안 관광여행지로서 명성을 누려왔다.

오늘날 국제관광은 단지 휴식의 계기가 아니라 아이덴티티를 확인하는 매개이자 문화교류의 통로이며 이데올로기를 초월한 상호의사소통의 계기라 여겨진다. 근대 이후 근대적 삶의 양식과 더불어 독립을 얻은 아시아 각국 국민들도 이제 관광에 눈을 돌리기 시작했다. 흔히 정체성 잃은 부족이라 불려온 미국의 인디언들이나 일본의 아이누족들도 관광으로부터 일정한 수입을 유지하고 아이덴티티를 확인할 기회를 마련한다.

이처럼 주체적 참여를 통해 자신의 문화를 우월한 것으로 재구성하고 새로운 보편성을 획득한 근대기 문화교류의 모델을 활용하면 민족이나 국가체제를 초월하여 새로운 문화를 구축하는 동기로 삼을 수 있을 것이다.

dCollection

1.近代文化の接変の含意

‘グロバル時代’の国家間の文化交流として、どんな方法が存在するだろうか。歴史や政治問題から離れて自由になり日常の生活文化を通して交流するのが文化観光流として望ましいだろう。

特に、両者が同じ文化的統を持ち、調和された文化ならばその境界線を超えて[1]伝達者と受容者が互いに意識や趣向を合わせるのは簡単である。[2] しかし、そのようなことは決して簡単なことではないだろう。

世界的に19世紀頃からはじめられた‘地域の発明’と文化の伝播は看過することが難しい属性がある。近代化は主に西欧の帝国主義的植民地主義者の支配によって行われた。被支配者たちが主体的に覚醒し自分で文化を作るまでには苦痛を伴った一連の経験と時間が必要だった。19世紀から行われた他人の地域の発見,或は発明があの場合には薬にもなり,あの場合には毒にもなるというの理由が正にそれである。植民と非殖民,主体と客体,主体と対象の判別が近代文化の属性だということだ。

よく近代文化は‘視覚が所有を生む’といわれる。地域や施設、物を見れば全て欲しくなるという意味であるが、資本主義論理が産業化や植民地支配だけでなく、それによって播された全ての文化に随伴されているのである。そのような近代文化の中で観光は‘見る文化’である。観光には19世紀の帝国主義時代だけでなく今日も同じ探索者の支配的目的の視線が込められている。その中で余裕のある豊かな生活を望むのであれば、対象化された利用価値が判別されるはずである。対象化や利用価値は産業主義的で資本主義的な属性である。近代人の観光の契機は自身の勞動の交換価値として‘余暇’を得て休息を取ることである。そのために人的提供の客体から観光を楽しむことに繋がり,産業社会の勞動者が近代の属性を主体とする観光を営為する。

それは観光地と観光地の住民のすべての人が単純な支配の対象であろうか。論議の対象を19世紀の植民地だけに限定すれば、そうと断定することができる。しかし,ヘゲル(Hegel)の‘主人と奴隷の道徳’に出てくる論理のように植民地の独立と主体性の確保は観光地の住民の自覚によって主体性を定立することができる。[3]アメリカのインディアンや日本のアイヌ族には観光はむしろ一定の収入を維持してくれ、アイデンティティを再確認させてくれ

---

1) 船曳建夫(1989),“さざなみとしての文化、うねりとしての文明”山田順造 編,‘未開’観念の再検討Ⅰ,株式会社ブロポ ト、1989,p.97.

2) 或る者は日帝が資本主義的に釜山を他者化したので殖民地統治期の近代化は‘畸形的な欲望の生産’であり‘国民として想像した共同体の理想的モデル’だと批判した。しかし、これは日本の一方的な役割だけを強調した見解である。(イキュン(이경)外(2003),文化の風景, 理論の座席,雨の後)

3) エバンスプリチャド,崔錫英 訳(1994),人類学と植民地,西京文化社,p.134.

dCollection

た。近代であって観光が本当に興味深い論議対象であることを考えさせられる。文化帝国主義、或いは帝国主義文化の浸透で国内文化が同質化される世界化の問題点は当然理解できるが、逆にその流れに能動的に参与し、己の文化の良いところを再構成し新しい普遍性を獲得する必要性がある。4)

ここではその具体的例として1890年代以来の東莱温文化及び観光を検討していく。東莱温泉は韓国では古くからの名所であり、近代期に日本人が近代的施設を備え経営しながら休養地として整備したところである。その後、日帝時代から韓国人も温泉を利用し運営に参加したことで、全国に類似文化が広がった。

東莱温泉に対しての考察は1960年代の論著5)を参照した竹国友康6)の『韓国温泉物語』が代表な書である。最近の研究としては‘近代、観光の始まり’という博物館企画展に載った「東莱温泉の近代史的意味」7)という論文がある。しかし、この論文は東莱温泉が日本人だけの専有物であるかのように論じられており韓国温泉文化とその関連性には触れておらず、沐浴文化が東莱温泉から全国に広がり現代まで継承されてきた点も見逃している。

だから、この論文の目的は国家と民族を超えて習合した接点を脱イデオロギ的に生活文化に例え韓日文化交流の可能性をみていくことである。

2. 近代都市と觀光文化

2.1 近代植民都市の建設

釜山は帝国主義日本が植民都市を建設する際の代表的な都市パタン8)であった。

釜山には各種建物が具備され9)上水道や交通施設をはじめとし、1900年には電灯、1902年には上水道、1915年には汽車、1916年には竜頭山公園と高官公園、1918年には大庁公園などが造成された。10)

特に釜山は開港初期から‘大陸関門の役割を果たす交通の要衝地’として韓半島と大陸、日本とを出入りする関門であり、物資移動の結節点として発展してきた。その上、釜山はヨロッパとアジアを繋ぐ極東アジアの関門として役割を担っていた。11)1907年ごろ発売され

4) パクヒ(박희)(1997)‘世界化の展開過程’,世界化と規範文化,韓国精神文化研究院、pp.48－49
5) チェギゥ(이제우).キムヨンウグ(김용욱)(1964)、釜山温泉に関する研究,親学社.
6) 竹国友康(2004),韓国温泉物語,岩波新書.
7) イムファスン(임화순)(2007),“東莱温泉の近代史的意味”,釜山近代歴史記念館,近代、観光が始まる.
8) 成田竜一(1993),近代日本の軌跡―都市と民衆,吉川弘館,,pp.222－223.
9) 成田竜一,ibid.,pp.P.15－40.
10) 釜山市史編纂委員会(1989),釜山市史,p.39.

Collection

た韓国小説の中で釜山が‘火輸船と慶釜線鉄道が通る都市’と説明されている。当時の連絡船と汽車は単純な運送手段ではなく、帝国が植民地と植民都市を統一化する象徴であった。[12)]

1905年9月に就航した関釜連絡船を利用して韓国へ渡った渡航者の総数は初期4ヶ月間は7317人であったが、翌年には5万1583人にのぼり以降徐々に増加し、1906年には8万3315人、4年後の1910年には17万1543人にまで倍増した。[13)]1916年の場合、31万8363人が往来しており、韓国への入国者数は20万2378人、日本への出国者数は11万5985人であった。1912年に3千トン級の大型船舶の碇泊設備が備えられ1925年に京釜鉄道が開通されてからは‘大陸進出’という連絡船の就航目的とも重なり、1925年には70万人[14)]、1932年には80万人までに利用者がのぼった。[15)16)]

そのため釜山は1930年代末には既に京城に次いで韓国2位の都市にまで成長していた。

---

11) 編輯室(1930),風俗地理,新光社,p.39.,釜山港から内外主要地へ行く距離と所要時間

都市	距離	所要時間
下関	１２２浬	8時間
基隆	７２５리浬	７２時間
上海	４９０浬	54時間
京城	４５０km	１０時間
安東	９５０km	２３時間
奉天	１２２８km	２８時間
大連	１６２５km	３５時間
パリ	１万 ２７３０km	１５日間

12) キムセンファン(김성환)(2003),“1930年代大衆小説と消費文化の関係様相研究”,韓国現代文学界 編,韓国文学と風俗 1,国学資料院,p.134.

13) 朝鮮総督府(1912),朝鮮総督府統計年報,75項.

14) 1928年の釜山港出入船舶と関釜連絡搭乗旅客数

	釜山 発着　２６６，５２７人 釜山 通過　４４３，６５８人
합　계	７１０，１８５人

15) 森田芳夫(1968),“戦前における在日朝鮮人の人口統計”,朝鮮経済48号,p.70.

16) 釜山港出入船舶搭乗国別 (風俗地理,op.cit,p.6再構成)

国	人数
日本人	５１만 ５,６０１人
韓国人	２８１５９６人
中国人	３，８０３人
ロシア人	１，２９８人
美国人	１，７４３人
英国人	７３６人
独逸人	４９８人
其他	７０５人
合計	８０６，９８０人

dCollection

人口は1914年から1942年までの28年間で5倍に増え、経済不況が発生した1908年の前年比に比べて人口増加率は28.74%に達していた。[17]この人口増加率は京城、札幌、函館、仙台、静岡、中国の大連よりも高かった。[18]

渡韓してきた日本人たちは釜山を見て‘内地化されている’と感じ[19]　距離的に近く自然条件や文化、社会構造が似ている釜山は日本人にとって親しみやすく日本人社会を形成し易かった。ところが日本人が韓国へ来る場合はそれほど大変なことではなかったが、韓国人が日本へ渡るとなると本籍地の警察署で証明書を取って再度釜山水上警察所で‘渡航書’の発給を受けなければならなかった。当時、釜山から日本へ渡った韓国人の多くは＜東洋拓殖会社＞によって土地を失った農村出身の勞動者が大半であった。植民統治によって故郷を離れた彼らは社会が安定した日本で工場や港巽、炭鉱などで働くことを目的として渡航した。[20]　それに比べ、韓国へ来る日本人は事業や観光あるいわ開拓などが多かった。

釜山は倭館の歴史があったため比較的日本に対する抵抗感が低い都市だといえる。そのため日本から多くの近代文物を移入した。それらは[21]‘広木’とよばれる綿織物をはじめとし、石油、麻布、塩、石炭、車輪、船舶、学術機器などの近代的利器が主であった。[22]　その後、港湾、鉄道、幼稚園など、近代的制度、また‘温泉’や‘ウドン’といった日常文物が輸入された。このような近代文物は日常文化に入りやすく抵抗感なく生活の中に浸透した。

2.2 近代文化としての觀光

日帝時代に韓国へ導入された近代文化の一つとして‘観光地巡礼’がある。1912年(一説では1914年)＜日本旅行協会＞が京城に朝鮮支社を設立し本格的な観光事業を展開しはじめた。＜朝鮮総督府＞は特に‘妓生’,‘金剛山’,‘’近代都市としての京城‘及び’温泉観光’を積極的に広報した。軍事、経済の拠点であった南部地方は早くから開拓され釜山を初めとし、大邱、慶州、馬山など地域的特徴や歴史、名勝、交通、宿泊宿などの情報を広報した。

---

17) 朝鮮総督府,ibid.,164項
18) 天野太郎(2002),“近代植民地都市釜山の形成と日本系宗教施設”,京都大学大学院人間.環境学研究科,地域と環境 No.4,第8項-12項参照.
19) キムゼンドン(김정동)(2001),文学の中の我々の都市紀行,昔の今日,p.48.
20) 崔海君(2000),釜山に暮したい,地坪,p.211.
21) 日本でも西欧文物を早く受け入れた港湾都市は発達が早かった。神戸はガスや遊歩道が先に設置され‘文明の可視化’であり,東京の銀座は‘18世紀末からイギリスのロンドンの繁華街を再現した空間’として日本人の自負心を背負った.(E.サイデンスチカ,ヘホ 訳(1997),東京の物語,移山,p.81.)
22) 釜山商工会議所,釜山経済研究院(1989),釜山経済史, p.509.

dCollection

初期から広報方法は多種多様であった。鉄道会社と組み、多くの周遊券や鉄道割引券を販売する一方観光地図を作成し旅客数呼び込みに力を入れた。特に＜朝鮮総督府＞が配布した観光地図の中には各地方の中小企業や旅館、タクシ,百貨店などの広告とともに時計店や交通機関の時刻表、官公署案内、換銭所などの位置、住所電話番号が記載されており、地域案内と生活情報を兼ねて作られ見知らぬ土地での不便を感じさせないような努力がされていた。23)

それら広報と地図の案内機能が卓越したのは観光客の視線の体系化と組織化に徹底したためである。即ち、植民下の韓国は本来、前近代的であったが＜朝鮮総督府＞の施政によって土地の不便差を感じさせないような意が込められていたのであった。

韓国観光の出発地はいつも‘大陸の関門’釜山であった。1930年代に＜釜山観光協会＞が作成した観光地図には‘観光はまず釜山から！’,‘観光は明快な半島の玄観慶南へ’と謳われ釜山港の前には‘観光に来れ！先ず視察せられよ！！大陸初の国際港釜山’と掲げられていた。また幸町付近を中心に酒屋や遊廓を築き‘一夜千金の不夜城のロマンス’という宣伝もあった。24)

現在の観光業界の戦略同様25),‘広告とマケティング’,‘輸送’,‘観光客を引く魅力’,‘住居、食、娯樂’などの構成要素をよく踏まえた観光政策であった。これらは日本国民に向ける宣伝であったと同時に軍人の士気を高める政策でもあり、韓国人はそこからは除外されていたのである。観光地図全般が日本語で書かれており韓国を徹底して他者化した日本人による趣向に沿うよう観光名所を紹介している。26)

2.3 温泉觀光の廣報

ところで、それら観光の中には温泉観光に関する政策は西洋文化一辺倒の近代文化の中にあっても少々例外的な面をもっている。温泉文化は日本人が昔から受け継いできたものであり、韓国人にも身近な文化であった。しかし、韓国では温泉は王をはじめとする‘兩班’たちの専有物であったため、19世紀以前まで大衆化された沐浴文化ではなかった。韓国は比較的空気が乾燥している上、儒教規範であったため肌の露出は極めて禁忌視されていた。27)そのため井戸や川、家の中で顔,手,足,髪の毛、上半身などを洗う‘部分浴’が一般的であった。それ以外では村で祭りを行うときなど祭官が川で身を清めることがあったがこれは極めて特殊な出来事であった。

23) ムンオクピョ(문옥표)(2006),“日本人観光客と韓国文化”,我々の中の外国文化,小花,pp.34－35.
24) 今井晴雄(1939),朝鮮之観光,朝鮮之観光社,p.192.
25) bammel/bammel著,ハヘンクク訳(1995),余暇と人間行動,白山出版社,pp.348－350.
26) 任在海(2000),地域文化と文化産業,知識産業社,p.4.
27) 竹国友康(2004),韓国温泉物語,岩波新書,p.4.

dCollection

‘火山大国’日本は昔から一般の民衆が温泉浴や温泉旅行樂しむ風俗があり、温泉は『日本書紀』などの古書にも登場する程長い歴史があり、温泉に神教及び仏教の観念が入り‘神の湯’と呼ぶこともあったほどである。28) 江戸時代に入ってからは温泉医学研究書と案内書が発刊され藩ごとに湯役所を設置して管理人を置いた。29)一般民衆はお金を集めて農閑期に布団や釜などを持ち合い温泉地を訪れた。次第に温泉地に簡単な食事を出す宿が現れるようになり、娯樂施設をはじめ郷土料理、遺跡巡りなどのコ-スが観光商品化された。江戸時代中期以降、道路が整備され伊勢神宮などに参拝したのち温泉を訪れる‘精進落し’の宴会を行う30)風俗が現代にもわり、大浴場に浸かった後で宴会を樂しむ風習として残った。

近代期に韓国に紹介された温泉文化は日本式風習に西洋風習が混ざったものだった。西洋人は温泉を31)身を清潔にすると同時に娯樂として樂しんでおり、スポツをしたり、商店街で買い物したり、賭博や売春などもある施設と考えていた。日本人が作った温泉場は鉄道を利用した案内冊子や観光地図によって宣伝され、旅館にはテニスコ-トや囲部屋、オンドル部屋、パチンコ、ラジオなどが具備されていた。このように近代文物と娯樂文化が集まっている温泉場こそ先進文化を満喫できる異色地帯であった。

東莱温泉場はただ単に釜山市民の安息所ではなく植民地を文明化させるため発展した街である。その出来事として＜満州鉄道株式会社＞が軍人療養用にホテルを建てた事実があり、このようなことからしても釜山は植民統治の要衝地であった。32)

しかし、その日帝の政策目標は韓国人が主体になったことで大きく変わっていくことになる。

3. 東莱溫泉の開發

3.1 東莱溫泉の歴史

東莱温泉33)を始めて開発したのは日本人ではなく、もともと東莱は韓国の統的な休養地であった。『三国遺事』の新羅神文王代683年に関連の記録がある。34)即ち‘新羅第31代の神文王代永淳2年宰相の忠元公が萇山の温井で入浴して環城するとき’という場面がそれである。35) 似ている記録が1481年に刊行された『東国与地勝覧』にも載っており、当

28) 日本温泉科学協会(2005),温泉学入門―温泉への誘い―,コロナ社,p.97.
29) 白水晴雄(2000),温泉のはなし,技報堂出版,p.114.
30) 八岩まどか(2002),温泉と日本人,青弓社,pp.104－105.
31) ソルヘシム(설혜심)(2001),温泉の文化史,ハンギルサ,pp.235－271.
32) 崔海君(1997),釜山7000年のその栄辱の足跡,地坪,pp.251－252.
33) 釜山慶南歴史研究所編(1999),釜山の歴史,ヌルハムケ,pp.68－74.
34) 崔云鉉(2001),芽山地域の温泉観光の発展に観する研究,順天郷大,修士論文,p.3.

dCollection

時の東莱官庁には専属の仕官が1人温井院(温泉場所) に配置され駅馬を提供しながら宿泊を手伝ったという。

＜朝鮮王朝実録＞にも王が ‘東莱は遠いが行きたいので修理しろ’ と言ったことに対して家臣が ‘東莱にはいい官舎がありますので直す必要などありません。今すぐご出発なさいませ’ といった記録 がある。[36]

このように歴代の王たちが利用してきたと同時に施設の修理もその度々で東莱府使たちが継続して行ってきており、粛宗17年、新しい泉源に 9 間の浴舎を建て、英祖42年には 9 間の大門を建てた。これら修復の記録は現在も温泉地の一角に ‘温井改建碑’ として残っている。[37] 修復しながら拡張してきた公衆浴場は‘男女別湯制’であった。[38]

韓国では歴代の王が利用していた温泉であるが、その価値を分かっていたのが日本人の対馬主であった。

温井(浴場施設)は 9 間、建て直して男女の湯を区分し、爽麗たることキジが飛ぶ如し。

日本人は昔から東莱温泉の存在と価値を知っていた。＜朝鮮王朝実録＞の東莱温泉に関する記録のほとんどは対馬主が来て入浴した内容である。

東莱の温泉を拝むだけでも病気がなくなるような感じである。30日、50日でなければ治るのが難しい病でもよくなり誠にありがたいものである。[39]

李重煥の『択里誌』にも‘密陽の東南方向に東莱があり倭国から上陸する境界なため村の南方海岸に倭館を設置して毎年𡸁馬島民が島主の文書を持って倭人数百名を引率して館に泊まる’[40] と書かれてある。

しかし,東莱温泉は1547年以降,倭人の居留と通行が厳しく制限され,1601年には絶影島倭館が設置されたのちは使臣接待は行っても温泉の出入りは規制した。[41]倭館の日本人たちは規制を破り付近の村へ出入りしながら密売買や性売買,脱走を繰り返し,麺や酒などを入手した。[42]次第に住民らと衝突が起こるようになったため,規制は更に厳しくなった。198年間

35) 三国遺事.
36) 朝鮮王朝実録第 7 集.
37) 釜山市文化財記念物第14号.
38) キムヨンウク(김용욱),op.cit.2001,p.549.
39) 朝鮮王朝実録第11集.
40) 択里誌.
41) 上垣外憲一(1989), 雨森芳洲,中公新書, p.90.
42) イヨン(이영)外(1999), 前近代韓日関係史, 韓国放送大学出版部, p.357.

dCollection

の倭館設置の間,日本人が東莱温泉へ自由に往来することはできなかった。

そうした中で1876年の＜江華島条約＞と1877年の「釜山口租界条約」の終結で日本租界が設置され管理官が常駐し日本人は永久祖借権、家屋建築賃借権、航行測量権、通商権などの権利を受け[43] 釜山に住んでいた日本人は商売をしたりした。釜山市内では日本の貨幣も利用できたという。

1879年、日本士官と水兵らが東莱温泉へ行こうとしたが、韓国側の官員によって制止されてしまった。'日本人の通行守則'には東莱への往来が許されていても官衛には入れないと規定されていたのである。

その後,1882年「朝日修好規畧約と「議訂朝鮮国閑行里程約条」が締結された後、日本人の東莱温泉までの通行権が拡大された。＜日本領事館＞は＜東莱府＞と交渉し公衆浴場の女湯を借り受ける権利を得た。[44] 1882年の壬午軍乱から1884年の甲申政変の間禁止されていた日本人の東莱温泉への出入りは1885年に解かれた。[45]

3.2 東莱温泉場の変貌

日本人の本格的な出入りと開発は東莱温泉に大きな変化をもたらした。それは植民統治政策を行う＜朝鮮総督府＞により支配者の視線で植民地を他者化する過程が生まれたためである。

1897年,日本政府は韓国政府と交渉し,＜釜山日本人居留民会＞が温泉場の一部とその付属施設を10年間借用するという[46]開発営業権を得た。このときから日本人が直接運営に関われるようになり、東莱温泉には日本人初の旅館 '八頭司旅館' をはじめ '蓬莱館' などが次々に開業し、1914年には'朝鮮京阪亭旅館',1915年には'鳴戸旅館'などが開業した。1922年には＜満州鉄道株式会社＞が軽便鉄道の事業権を受けて日本軍療養所を兼ねた[47]'満鉄ホテル'と'東莱ホテル'を開業した。日本式旅館の'鳴戸旅館'は客室14、浴室３を備えるほどの規模を誇っていた。また、石で作られた浴槽と洗面台を完備し廊下や階段、外壁まで凝った造りであった'迫間湯源'[48]は華麗な二階建て邸宅であり,皇室の親姻戚が泊まる特室も備えられていた。

1910年11月＜朝鮮瓦斯電気株式会社＞によって釜山鎮から東莱南門まで往復する軽便鉄道が開通された。1915年1月には総督府から電鉄設計の許可が下り,10月釜山鎮から

43) キムヨンウク(김용욱), op.cit., p.552.
44) 竹国友康,op.cit., p.102.
45) キムヨンウク(김용욱), ibid., p.553.
46) キムヨンウク(김용욱), ibid., p.554.
47) イムファスン(임화순), op.cit., p.203.
48) イセオキュ(이서규)(2005), 写真で見た日帝時代の残影, 知識の羽, p.60.

Collection

東莱温泉場までを往復する電鉄が開通し旅館と料亭もそれに伴い増加した。1914年温泉場方面に１等道路が開設されると1915年には東莱温泉場線と梁山東莱線、東莱南線、機帳大邊線が相次いで鉄道路線を開通し,人と貨物の出入りが便利化された。1916年10月＜満州鉄道株式会社＞から援助を受け'温泉入浴権'と'電鉄往复割引券'をパッケジとした企画も販売された。

1930年から1932年の2年間の間で温泉川堤防工事が完了し,1933年7月に'温泉場の配湯券'が統一され上水道施設や東部幹線道路の舗装工事,温泉場改修工事,洗兵橋の所謂'5箇所事業'が完了した。東莱温泉場は開発当初から源泉と公衆浴場を中心に大規模な宿泊施設と飲食店,大小さまざまな旅館,外廓地には派手な別荘が立ち並ぶ計画都市だった。次第に旅館,別荘,料亭間の間で競争が激しくなり,不夜城と呼ばれるような近代リゾ-ト団地へと変わっていった。そして、1907年には6戸だけであった日本人居住者は1936年には90戸までに膨れ上がり,韓国人,中国人を合わせると家戸382戸,人口は1831人であった。しかし、この数字には日本から来た芸者や日用職勞動者は入っておらず,これらの人々を加えると人口はそれよりずっと多くなるだろう。

3.3 東莱温泉場の施設

日帝時代の東莱温泉場付近には東莱城、梵魚寺など多くの遺跡が残り交通手段の便宜性と宿泊施設を備えた休養都市であった。

交通の便は1910年,釜山鎮駅から東莱まで10kmを運行した軽便鉄道が[49]午前6時から午後10時まで１日15,16回往复しており,所要時間は48分と早かった。1916年以降,軽便軌道が汽車に変わってからは交通の便はより快適になった。1930年ごろでは釜山駅を基準とし,午前5時から午後11時20分まで18分毎に東莱温泉場まで発着便が出ており,料金は片道25銭,所要時間は50分であった。自動車は午前7時30分から午後8時30分まで1時間毎に発着しており料金は片道50銭,所要時間は30分程度であった。また,梁山へは1日2回自動車便が発着しており所要時間は40分,料金は片道1円であった。蔚山邑内行きは1日5回自動車が発着しており、所要時間は2時間で料金は3円50銭であった。そして、慶州仏国寺へは1日一回自動車が発着しており、所要時間は3時間、料金は4円50銭であった。

東莱には宿泊施設として日本式、韓国式の宿泊施設があり、それとは別に自然石で作られた公衆浴場が2箇所あった。特に'蓬莱館'は6つオンドル部屋を完備し総客室は36部屋にも及んだ。広い敷地内には池があり,手入れの行き届いた庭園は素晴らしかったという。その'蓬莱館'は当時"東洋一","朝鮮のパラダイス"などと呼ばれていた。'蓬莱館'の宿泊料金

49) 竹国友康op.cit., p.111.

dCollection

は1泊2食付きが基準で特室7円から4等の部屋80銭まであった。

2箇所の公衆浴場は幅が3坪,浴槽の深さが1尺,温泉水湧出量は1日1,350石程度で,家族風呂は＜朝鮮総督府鉄道局＞と＜東莱面＞が管理していた。

東莱温泉場は日本国内でも珍しい多様な施設を備えていた。このような面は釜山市内でも同様であり、市内には日本国内より立派な建築物が存在し,“日本は自身の植民政策を宣伝するために日本国内にある建物よりも、より近代的な建物を釜山に建築し残したのである。”50)と評価されている。このように東莱温泉場の開発と建設は植民統治の下で＜朝鮮総督府＞と日本公企業の膨大な支援を受けながら展開していったのである。

釜山案内書には“鉄道で温泉場へ”という、スロ-ガンがあり、東莱には初期から軽便鉄道が通り,1927年11月には温泉場まで電車が入っており,“終点型温泉場”として日本国内よりも早くから登場した‘終点型温泉場’であった。

温泉場では旅館内に“内湯”を設備し,家族風呂として提供した。この内湯は東莱温泉をはじめ,温陽,儒城などの温泉地にも設置された。51)また,東莱温泉場にはそれぞれ2箇所ずつ医師出張所と薬種商,産婆が常駐し, 4 箇所の薬剤販売所があり医療施設も整っていた。東莱は韓国国内の温泉地としては珍しい多くの娯樂施設を備えており、3箇所のパチンコとテニスコ-ト,ラジオが2台、その内ラジオは京城と名古屋,東京の放送を聴くことができた。52)

これは前節でもみてきたように観光政策であり,観光業としての現代的な構成要素としては全く劣っていないのである。53) むしろ‘住居,食,娯樂’の提供には優れた商術が使われたほどである。‘蓬莱館’は湯煎餅や,客の好みに合わせて絵や文字入りの陶磁器を焼いて売ったりした。54)また,毎年4月には盛大に‘桜祭り’を開催した。1932年の場合,日本人芸者と遊女50名,韓国人妓生20名が常駐する国内最大の遊樂地であった。当時、芸妓たちの東莱券番（妓生組合）大温習会や‘蓬莱館’での芸の新作発表会や公演は新聞で報道される程注目を集めていたという。55)

---

50) PSBドキュメンタリ,“なくなっていく36年”,2002年8月13日 放送分.

51) イムファスン(임화순),op.cit,pp.205－206.

52) この施設は当時の温泉場と比較すると交通の便は需城温泉が大田から自動車で30分、温陽温泉が京城から3時間ほどであり、これらと比べてみても東莱温泉は釜山駅から自動車で50分の距離にあり市内中心から近く,また温泉場の中心まで電車が通っていたことはとても興味深いことである。次に宿泊施設は温陽温泉が日本式旅館5箇所,韓式旅館4箇所,水安堡温泉が日本式旅館3箇所,韓式宿泊施設11箇所,儒城温泉が日本式旅館5箇所,韓式旅館4箇所と比べて,東莱温泉はホテルを含み日本式旅館が8箇所,韓式旅館が4箇所と一番多いことがわかる。娯樂施設も温陽温泉がパチンコとテニスコ-ト,水安堡温泉がテニスコ-トだけであり,儒城温泉には娯樂施設はなかった。これに比べ東莱温泉にはパチンコとテニスコ-ト,ラジオなど最新の娯樂施設が完備されていた。

53) bammel/bammel,op.cit., pp.348-350.

54) 釜山銀行(2005), 釜山, 歴史の香気を探して, 暁民 D&P.,p.291.

55) ハンセオクゼオン(한석정)(2006),“満州指向と従属性—1930-40年代,釜山日本居留民の世界”,韓国民族運動史学会,

dCollection

東莱温泉は国際観光地として“九州の大分別府へ行かなくても,ここに来られよ”や“一番訪れてみたい温泉”,“朝鮮第一の有名温泉”などと紹介している。各種、旅行案内冊子にもこれと同様の文句があり,“朝鮮第一の別世界”,“朝鮮第一の温泉”などとある。

無限の快樂境あれば繁栄せる大通りもある。東洋一と唱えられる開橋は時間毎に巨大な口を開けて巨船が往来する。――― (省略) ―――。有名な温泉郷東莱や清楚な海雲台はわずか数十分にして行ける,何と愉快な観光都市見逃さずに視察の時間を割愛せられよ。56)

東莱温泉の年平均利用者数をみると6万3000人余りに達しており,これは温陽温泉の14万900人よりは少ないが温陽温泉が京城の隣近であることを勘案すれば,この6万人という数字はかなりの数である。

下の表は当時、東莱温泉を利用した客数の3年間の平均値である。57)

	春	夏	秋	冬
浴客數	男 10,427人 女 7,869人	男 7,866人 女 7,105人	男 9,737人 女 7,271人	男 10,738人 女 6,021人

ここで韓国人と日本人の間の職業を比べると偏差があり,1921年ごろの韓国人の64.6%が勞動と商業に事し,日本人は70.3%が工業及び経営に事した。58)植民支配が本格化された後も韓国人の職業には変化は見られず,日本人側は温泉に行き程の余裕が持っている公務員や自由業を中心に比率は高くなっていった。59) このようなことから,近代化初期の東莱泉場の利用者は多くは日本人中心であったとみることが妥当であろう。

このように近代休養都市であった東莱温泉場は旅館施設の料金は決して安くなかったが訪れる客の足は途絶えることなく、解放時まで大きな変動も起こらず黄金期を迎えたのである。

韓国民族運動史研究48集,pp.277-278.

56) 今井晴夫,op.cit.,p.189.

57) 朝鮮総督府(1939),調査資料第39集生活実態調査(其六) 朝鮮の集落中篇,pp.406－411.

58) 朴海玉(2004),“釜山の都市プランの変遷”,千田禾念編,アジアの都市形態と文明史,国際日本文化研究センター,p.353.

59) 東亜日報,1932年10月26日字.

dCollection

4. 韓國人の近代文化の受容と擴散

4.1 韓國人の溫泉文化の受容

釜山市中心の日本人居住地域に韓国人居住比率が高まったことで両者間で文化の接触が起こるようになり60)釜山は混種性の61)"接点地帯"になっていた。62)金海には日本の絹で作った扇や日本洋傘,日本産の硯と美濃紙が出回った。また,草梁と東莱には "下の階は朝鮮式作りの部屋,2階は日本式の部屋"という住宅が多く建てられ"韓服の下はブ-ツや下駄を履く"という装いも流行り"カ(韓国の成人男子がかぶった冠)をかぶり遊覧船に乗る"姿が多く見られた。63)韓国に住んだ日本人は"桜の下でチャングとゲンガリ,太鼓の音を聞きながらオンドルで甘酒を飲んだとある。64)

日本が韓国に持ち込んだ文化の中で植民統治性の色の薄い大衆文化は韓国人の生活の中に入り込み,日常生活文化として受け入れられた。温泉文化や観光もその一つであり,湯が暮らしを豊かにするという考え方が一般化された。

1920年ごろから"朝鮮のパラダイス"といわれた東莱温泉場に韓国人居住者が移りすみ,その数は6倍にも増したという。韓国人が増えると温泉場も活気づき、全国から韓国人観光客が集まり入浴を樂しんだ。当時、日本人の温泉場開発を目にしていた韓国人たちがどのようにそれを見つめていたのかは分からないが、百貨店など新しい文化に反応して"魅力的で幻想的な消費文化に対する劣等感"はあったと思う。65)思ったとおり『朝鮮地質調査要報』によると1932年の東莱温泉への訪問客数は1日平均458人であり、その内日本人は225人,韓国人は233人であった。韓国人の方が日本人より多かったのがわかる。66)これは韓国側で祭祀や演芸会などの特別な行事のときに温泉場を利用することが一般化されたことが伺える。67)

このような中で韓国人たちも両班出身の人々が中心となり温泉事業に乗り出した。1923年『朝鮮地質調要報』では東莱温泉場にこの年新築された'東莱面浴場'をはじめとし日本人旅館の中に韓国人経営の旅館が混ざっていたことが記録されている。投資家までは確認

60) 金楨夏(2005),"近代植民都市釜山の性格に観する考察"東北アジア文化学会,東北アジア文化研究第9集,pp.189-192.
61) 朴海玉,op.cit.,P.325.,釜山慶南歴史研究所編,op.cit.,pp.68-74.
62) キムゼオンドン(김정동),op.cit.,P.48.
63) ハムハンヒ(함한희)(2005),台所の文化史,サリム,p.25,イヨン(이영)外,op.cit.,p.359.,キムズリ(김주리)(2005),モダンガル、きつねマフラーを捨てれ,サリム,p.62.
64) 竹国友康,op.cit.,p.232-233.（終戦後 '引揚者' と呼ばれ日本に帰還した彼らの相当数が'オンドル'と'キムチ'.'アリラン'に慣れた"日本の中の日本人"と可笑しく呼ばれ差別を受けた。）
65) ヘオヨンラン (허영란)(2001),"近代的消費生活と植民地的疎外",伝統と西欧の衝突,歴史批判社,P.89.
66) 竹国友康,op.cit.,p.160.
67) 竹国友康,ibid.,p.159.

dCollection

できなかったが,1933年に発刊された『朝鮮集落』の中に韓国式旅館として'桂山館'をはじめ4箇所確認できた。やはり韓国人の旅館であれば韓国人が多く利用したことは推測できる。これら旅館の宿泊料は1日2食付きが基準で特等室が2円40銭,1等室が2円とあり4等の80銭まだ料金設定がされてあった。日本式旅館に比べると多少安い設定であったようだ。

このように韓国人も旅館経に加わり,温泉事業の活性化に貢献していたが,温泉水の源泉を直接引くことはできなかった。1923年の場合,源泉43箇所中,利用できる源泉は33箇所であったが,それら全てを日本人が独占していた。[68]その後,1930年代に入り源泉湧出量を増やすための工事がきっかけとなり日本人と韓国人の間で衝突が起き,源泉に関しての不満が表面化した。韓国人側は日本人と＜朝鮮総督府＞の源泉独占に強い不満を抱き,温泉井掘削権を獲得しようと激烈な運動を展開した。このような展開に＜朝鮮総督府＞も譲歩し、[69]このことによって韓国人の手に温泉経営権の一部が渡った,続いて韓国人資本家が温泉経営に進出し旅館経営を本格化させた。1942年に設立された＜東莱温泉株式会社＞の株主の中には日本人40名とともに韓国人17名が含まれていた。これによって韓国人も観光産業の主体的存在[70]になり積極的に観光産業事業に加わるようになったのである。

1945年,解放時には＜東莱温泉株式会社＞の韓国人株主が温泉場全般の運営権を行使していた。混乱期を経て1946年,温泉の管理と運営権が釜山市に渡り＜東莱温泉株式会社＞は解散した。解放以後,東莱温泉場にあった旅館の中に'白鹿館'などが韓国人に引き続がれた。'東莱ホテル'と主要別荘らは米軍政庁が賃貸し米軍の休養地として使用された。料亭の中には依然として数多くの妓生を雇用し韓国料理で客をもてなすというスタイルが維持された。1950年中旬ごろ120名の妓生が東莱地域で働いていたという。

4.2 温泉文化と觀光の擴散

東莱温泉は印象が強く温泉文化を韓国全土へ広めるきっかけになった。東莱温泉場を訪れた旅行客たちは、そこで経験した沐浴方法を各地で再現していった。全ての地方に温泉があるわけではないが,人口が密集している地域には大衆銭湯が建設された。銭湯の存在は沐浴文化の拡散に繋がり,韓国人の沐浴習慣が変わっていった。これに対して竹国友康は1909年,1915年ごろの資料で韓国人の沐浴習慣の変化について言及しているが,1921年平壌府が開設した'公設銭湯'を温泉以外　　の地域の公衆銭湯の初代にあたるとみており、その後、銭湯の数は1933年に入り、全国で15箇所にまで増えたとしている。[71]

68) 竹国友康,ibid.,p.162.
69) 竹国友康,ibid.,pp.167－172.
70) ゼオンキュンス(전경수)(1999),文化の理解,一志社, p.285.
71) 竹国友康,op.cit.,多数のページ参照.

dCollection

名節など特別な行事のときの簡単な入浴とは別に,公衆銭湯は広く一般の間で広まり,生活の一部として入浴を楽しみはじめた。勿論,解放後しばらくの間は社会的混乱と戦争,経済的貧困など,人々の生活は苦しかったため,沐浴文化の定着自体は難しかったと思われるが,1960年代に入り産業化で経済事情が変わり各地域に大衆銭湯が建設され利用者が増えていった。1970年代中ごろから公衆銭湯だけでなく,家庭にも沐浴施設シャワ-が備えられるようになったが,銭湯は村人たちの集まりの場として依然人気に愛用されていた。

温泉観光は1970年代にブ-ムとなり,釜山では'釜谷ハワイ'や'白岩温泉'などのテ-マパ-ク式の銭湯が建設され遠近各地から人々が訪れるほど人気であった。[72]東莱温泉場は近代温泉観光の発祥地として名声をつながれて来たが,日帝時代に比べると風景が大きく変わっていった。その理由として,韓国戦争が起こり,汽車の終点であった東莱に避難民が押し寄せ混乱の中で無秩序に住宅が建てられたためだ。

その後1960年代に入り,1964年に金剛公園,1965年に動物園,1969年に植物園など園庭を開場し,中高生の修学旅行地になった。1970年代に入り,東莱温泉場は釜山市の人口増加,工場の入地,高速道路開通などで人々の生活の中心的機能を兼ね備えるようになった。1970年,釜山市は観光事業育成計画に伴って東莱を観光地として告示し1981年,温泉法により温泉地区として指定し湯源開発抑制と温泉資源保護及び管理に乗り出した。そのため飲食店や宿泊施設が大幅に減った。観光地の特性は維持したが既に温泉湧出範囲は温泉1洞4号を中心に半経70mに密集され利用可能な温泉源は28にまで減っていた。年間利用者数は65万7000人だが温泉資源の再開発がうまくいかず1986年には'観光地'としての指定までも解除されてしまった。[73]1991年には都市型温泉センタ-'虚心庁'が開館したが東莱温泉場は宿泊施設と飲食店が混在する副都心圏になってしまっていた。[74]
休養地としての東莱温泉場が退歩した理由として,温泉だけを全面にだし,地域がもっている歴史,伝統,自然条件,文化遺産を結合した休養都市としての保存と発展が必要であったにも関わらず,それら全てを度外視した政策,その上に土地所有者たちの無秩序な湯源開発が原因であった。[75]

東莱温泉場は交通の便がよく,観光資源,宿泊施設など依然主要観光地としての機能は十分にもっている。[76]昔の英華を知っている東莱住民たちは温泉が再び人気を得て,この街にまた活気が戻ることを期待している。そのために東莱区庁は最近,湯場と金剛公園を中心に'ウェルビングパ-ク'と題した方案を立て街再建に取り組んでいる。この'ウェルビングパ-ク'と

---

72) 任在海,op.cit.,p.88.
73) http://www.busan.go.kr/open_content/tour/geumjeong/6260000-arc-2.0-069.jsp?nSelected=7
74) 東莱区庁(1995),東莱区誌,第5－11編,pp.1437－1438.
75) 1980年代に海外旅行自律化で韓国人が日本の別府などの温泉地へ旅行をすることは日帝時代に取り入れた温泉文化に対する温泉への期待を求めるという事例が伺える。
76) 東莱区庁(2007),東莱区事業体基礎統計,p.2.

dCollection

は'温泉療養施設'や'鳥公園','複合文化館','展望タワ-'などを加えて,温泉療養施設を全面に出したメディカルセンタ-やフィットネスセンタ -を開設する計画であり,体にいい町造りを提案している。77)

5. 未來への前望

韓国の東莱温泉は歴代の王をはじめとした'両班'が樂しんだ場所として伝えられた伝統温泉文化の場所である。しかし近代に入り,一般人が自由に温泉を樂しみだしたという点では近代的大衆文化の標本でないかと考える。また,たとえ近代的休養地としての開発が植民統治の図謀であったとしても韓国人が温泉浴を樂しみ,その経営に参与しながらこれを生活の中に受容し共有したのにはそれだけの魅力があったからだといえる。

さかのぼって考えると,観光産業は近代,期植民帝国主義及び西洋文化などの流れに加担した東アジア帝国の近代植民都市作りの産物であると考えることもできる。しかし観光とは休息の機会を与えてくれる契機というだけではなく,アイデンティティの確認と同時に国家と民族の境界を越える文化交流の通度,また,イデオロギ-を超える相互意思疎通の契機にならなければならない。そのようなことを考えると観光とは民族や国家体制以上の次元で文化の習合と接変を加速化させてくれるだろう。

〈参考資料及び文献〉

1. 資料

(1) 三国遺事
(2) 三国史記
(3) 朝鮮王朝実録
(4) 新増東国輿地勝覧.
(5) 択里志
(6) 釜山広域市(1989),釜山市史.
(7) 東莱区庁(2007),東莱区事業体基礎通計.

77) 聯合ニュース,2007年6月1日報道内容.

dCollection

(8) 東莱区庁(1995),東莱区誌.
(9) 東亜日報,1932年10月26日字.
(10) 聯合ニュース, 2007.06.01 放送原稿.
(11) PSBドキュメンタリ,“なくなっていく36年”,2002年8月13日 放送分.
(12) 今井晴夫 編(1939),朝鮮之観光,朝鮮之観光社.
(13) 朝鮮総督府(1939),調査資料第39輯朝鮮の聚落.
(14) 編輯部(1930),風俗地理,新光社.
(15) 内外彙報,明治２７年 11月 17日字
(16) 釜山市庁 ホムページ http://www.busan.go.kr/open_content/tour/geumjeong/6260000-arc-2.0-069.jsp?nSelected=7
(17) 京都大学大学院(2002),人間・環境学研究科,地域と環境No.4.
(18) 釜山商工会議所 釜山経済研究院(1989),釜山経済史.
(19) 森田芳夫(1968),“戦前における在日朝鮮人の人口統計”,朝鮮経済48号.

2. 著書及び論文

(20) イムファスン(임화순)(2007),“東莱温泉の近代史的 意味”,近代,観光が始まる,釜山近代歴史紀念館.
(21) 崔云鉉(2001),“芽山地域 温泉観光の発展方向に関する研究”,順天郷大碩士論文.
(22) ハンソクゾンオソ(한석정)(2006),“満洲指向と 従属性-1930-40年代釜山日本居留民の世界”,韓国民族運動史学会,韓国民族運動史研究48輯.
(23) 金楨夏(2005),“近代植民都市釜山の性格に関する考察”,東北アジア文化学会,東北亜文化研究第9輯.
(24) ヘオヨンラン(허영란)(2001),“近代的 消費生活と 植民地的 疏外”,伝統과 西欧の衝突,歴史批評社.
(25) 朴海玉(2004),“釜山の都市プランの変遷”,千田禾念編,東アジアの都市形態と文明史,国際日本文化研究センター.
(26) ゼキル(제길우). キムヨンウク(김용욱)(1964),釜山温泉に関する研究,親学社.
(27) 釜山慶南歴史研究所編(1999),釜山の歴史,ヌルハムケ.
(28) 崔海君(1997),釜山7000年のその栄辱の足跡,地坪.
(29) 釜山銀行(2005), 釜山, 歴史の香気を探して, 暁民 D&P.
(30) 釜山発展研究院(1997),釜山社会文化の理解.
(31) イヨン(이영)外(1999),前近代韓日関係史,韓国放送大出版部.

dCollection

(32) イソキュ(이서규)(2005),写真で見た日帝時代の残影,知識の羽.
(33) キムジョンドン(김정동),『文学の中のわれわれの都市紀行』,昔の今日, 2001년.
(34) ハムハンヒ(함한희),『台所の文化史』,サリム, 2005年.
(35) ムンオクピョ(문옥표),"日本人観光客と　韓国文化",我々の中の外国文化,　小花, 2006년.
(36) ソウヘシッム(설혜심)(2001),温泉の文化史,ハンギルサ.
(37) ゼオンキュンス(전경수)(1999),文化の理解,一志社.
(38) 任在海,地域文化と文化産業,知識産業社,2000年.
(39) 韓国現代文学会編(2003),韓国文学과 風俗 1,国学資料院.
(40) エバンスプリチャド,崔錫英 訳,人類学と植民地,西京文化社,1994年.
(41) bammel/bammel 著, ハヘンクク(하헌국)訳(1995), 余暇と人間行動, 白山出版社.
(42) 白水晴雄(1994),温泉のはなし,技報堂出版.
(43) 竹国友康(2004),韓国温泉物語,岩波新書.
(44) 日本温泉科学会(2005),温泉学入門―温泉への誘い―,コロナ社.
(45) 八岩まどか(2002),温泉と日本人,青弓社,
(46) 上垣外憲一(1989),雨森芳洲,中公新書.
(47) 山田順造編(1989),'未開'概念の再検討I,株式会社ブロポート.
(48) 成田龍一,『近代日本の軌跡-都市と民衆』,吉川弘文館,1993年.
(49) イキュン(이경)外(2003),文化の風景, 理論の座席,雨の後
(50) E.サイデンスチカ,ヘホ 訳(1997),東京の物語,移山.

dCollection

〈필자소개〉

김 정 하 : 서강대 철학과 및 대학원 국문과 졸업
한국해양대 해양문화연구소장 및 평생교육원장
한국해양대 동아시아학과 교수
(관심사)한국문학 민속학, 동아시아지역학, 한일문화교류

엔도마이 : 일본 후쿠오카대학 동아시아학과 졸업
고려대 및 경남정보대 단기유학
한국해양대 대학원 동아시아학과
(관심사)한국문화 및 한일문화교류

dCollection